

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601218		
法人名	株式会社 WELL		
事業所名	グループホーム しらゆり 2F		
所在地	名古屋市天白区島田黒石716番地の4		
自己評価作成日	平成25年9月1日	評価結果市町村受理日	平成26年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成25年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人のペースに合わせゆっくりとした、又は活動的な生活を安全に行えるよう努めております。お花見や夏祭り 敬老会や初詣などの季節の行事を行い、毎日の散歩や日光浴にて外出していただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念で掲げている「自由でゆっくりとゆっくりと」を職員全体で常に意識し、職員の業務本位の支援ではなく、利用者一人ひとりが自由にゆっくりと自己決定が出来、日々の生活が安全に過ごせるように支援している。外食に行く機会は少ないが、食事に利用者、家族の意見を多く取り入れ、季節を感じるような献立、行事食等を提供している。今年度は、ボランティアの訪問が増え、マジック、琴、バイオリンの演奏、フラダンス等多彩な交流が行われ、利用者が楽しいひとときを過ごせるように支援している。今後は地域交流の輪が広がるように地区の民生委員、自治会長などに声を掛けていこうと管理者は前向きに検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は全員に周知しており、実践につなげている	「自由でゆっくりとゆっくりと」の理念をホームに掲示し、職員全員で共有している。利用者の意思やペースを尊重し、一人ひとりに合わせた日々の支援が理念に基づいた支援になるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開かれるお祭りやお花見 初詣に出掛けることや毎日の散歩で近所の方と挨拶をし交流を持つ様に努めている。	毎日の散歩の際には近所の人と挨拶を交わしたり、花や犬を見せて貰うことで交流が持てるように努めている。原中学校から福祉体験の来訪が有り、一緒に折り紙折ったり、リコーダーの演奏等交流の場が持たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に地域に向けての発信は行っていないが電話での問い合わせや見学等は随時行っており対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見や要望は話し合いにて反映するよう努めている。	運営推進会議は二か月に一度実施し、利用者の状況やホームの活動、前回出された意見要望に対しての報告を行っている。出された意見要望をサービスの向上に反映出来るように努めている。	会議の開催にあたり、今後は自治会長、民生委員、利用者家族に声掛けて参加協力が得られることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方も入居されており、連絡をする事は多くある。	区の担当者とは日頃から書類の提示や分からない事が有ると電話で問い合わせたり、相談するなど協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は行っているが、身体拘束に関して厳しく指導しており、徹底したケアを行っている。	身体拘束に付いての研修会や勉強会を実施している。支援の仕方を職員同士チェックし合い気が付いた点や改善点を話し合い、身体拘束をしないように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について定期的な講習は行っていないが、定期的に行うミーティングにて学ぶ機会は持っており、徹底して防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について今後勉強の場を設けていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面の全文を読み確認を繰り返し、理解納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話での連絡時に現状説明をし意見 要望をお聞きし反映するよう努めている。	家族には面会時や電話で常に利用者の様子を伝えている。家族の意見、要望、苦情が汲み取れるように職員はコミュニケーションを大切にしている。家族の要望は、職員間で話し合い運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に聞く様になっているが、定期的な会議にて機会は設けている。	職場の雰囲気も良く、管理者は日々の職員とのコミュニケーションの中で意見要望の把握に努めている。風呂場の椅子を変えたらどうかと言う職員の意見があり、代表者と検討して改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会は可能な参加 開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等での交流はあるが定期的な勉強会 は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴を第一に考え努めている。自己表現が難しい場合も多いが安全・安楽に生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活歴、困っている事 不安 要望をしっかりと聞き良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかりと話を聞き対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活を踏まえ共に可能なかぎり共に行動し生活できるよう行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と御本人との時間を大切に、日常生活や身体的な変化を伝え意向を聞き支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医や美容院など本人、御家族の意向を聞き支援している。	利用者の中には馴染みの美容院、医院、墓参りに家族と出掛けている。又知人、友人の訪問、携帯電話の使用や手紙等利用者一人ひとりに合わせ、馴染みの関係の継続に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	安全を確保しながら、交流が持てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ相談 支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人と御家族に話を聞きこれまでの生活性格も考え思いや意向の把握に努めている。	利用者との毎日のかかわりの中で、希望や意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な場合は、表情やしぐさから推し量るようにしている。また、家族からの生活暦を含めた、情報の聞き取りも、大きな手がかりとなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人 御家族 福祉関係者に話を聞きこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話をし共に行動する 顔色や食事 日常生活の変化に注意する 定時のバイタル測定にて把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時に御本人の現状を伝え御家族の意向 本人の意向を聞く、関係者間で話し合いをし介護計画を作成している。	日々積み上げた介護記録などを基に、職員間で話し合い介護計画を作成している。本人、家族の意向を反映した短期、長期の計画書は、変化が見られた時点で、話し合いが行われ、見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや連絡ノートを作り、活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は活用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人 家族の希望を大切に適切な医療が受けられるよう努めている。	利用者のほとんどは、ホームの協力医にての受診となっているが、かかりつけ医を希望する人には、職員が付き添って対応し、支援している。受診内容は、家族や協力医へ報告され、連携が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡ノートと口頭で伝える事で情報共有し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に医療機関へ行き医師・看護師との連絡調整に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	生活の変化を御家族に伝えつつ医療機関とも連携しチームでの支援に取り組んでいる。	家族には、重度化した場合、終末期についての説明が出来ており、書面にて確認も取っている。職員間での話し合いも行われ、医療機関との連携も出来ている。今年度は一人を看取りに近い形での支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救急救命の講習をほぼ全てのスタッフは受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火点検時の避難訓練 初期消火訓練を行い、災害に備えている。	年に2回、2月と8月に行っている。火災を想定し、水消火器の訓練と共に行っている。近隣には、事前に訓練日時の知らせを出して、理解を得ている。	昨今の多岐にわたる災害は、地域との協力が、不可欠と思われる。今後、地域との協力体制を、より強固にするための働きかけを、根気強く行ってゆくことを希望する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	挨拶はしっかりと行っている。自尊心を傷つけない様に注意し対応をしている。	常に、年長者を敬う気持ちを忘れず、言葉遣いなどにも気をつけ、親しみの中にも節度ある対応を心がけている。居室への入室には、声かけを忘れずにするなどの、プライバシーを損ねないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で自己決定出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己選択をしていただく、起床時と就寝時に着替えを行う 整容に注意し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り一緒に行っている。	献立では、1ヶ月ごとに、職員が利用者の意見を取り入れて、季節感を大切に作成している。調理は、職員が行っているが、利用者それぞれの能力に合わせて、配膳、片付けなどを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や回数を調整し確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安全に自立した排泄が出来るように支援している。	利用者の半分程は、自立した排泄をしているが、排泄チェック表を基に、声かけを行い失敗のないよう支援している。意思表示できない人も、排泄パターンを把握して、少しずつではあるが、自立に向かう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や食事のバランス、便座に座って頂く マッサージや運動で排泄に繋がる様取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は曜日を決め入浴していただいています。	週に2回、利用者の希望にそった形で、入浴している。友人と共に入浴したり、入浴剤を入れたりなどして、楽しんでいる。また、入浴拒否の人には、言葉掛けや誘導方法を変えて、無理強いせず入浴出来るように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜の逆転にならない様気をつけ支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルのお薬情報 お薬ケースに看護師の指示 申し送りノートを使用し支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	メリハリのある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩だが毎日行っている。希望があれば出来る限り対応できるよう努めている。	日常的には、毎日、事業所の回りを散歩に出かけ、個別の支援としては、馴染みの美容院や、買い物などの希望にそった外出をしている。ユニット毎ではあるが、初詣で、花見、盆踊りなど、季節に合わせた外出も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所にて管理しており、所持 使用できるような支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理・整頓を心掛け、レクリエーションで作成した物を好きな様に飾って頂き、安全に過ごして頂けるよう努めている。	玄関は、外気の変化を感じられるように、風が通り抜ける網戸になっている。ドアや階段など、多く木材を使用して、ぬくもりのある作りとなっている。居間や食堂は、手作りの折り紙などが飾られ、車椅子が、動き易いように整頓されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	落ち着く 楽しく過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた物や配置なども相談して心地よく過ごせる空間作りに努めている。	使い慣れたタンス、テレビなどを持ち込み、その人らしい部屋作りとなっている。壁には、折り紙、貼り絵の作品や、家族(孫)が描いた絵などが貼られたりして、個性ある雰囲気、居心地よく過ごせる工夫がしてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に応じ対応している。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2371601218
事業所名	グループホームしらゆり

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目：2)	評価
	自治会に加入し、地域行事の盆踊りに参加している。近所の神社、公園には初詣や花見等で出掛けている。社会福祉協議会の紹介に寄り、マジック、フラダンス、琴、ハンドベル等多くのボランティアを迎え利用者との交流に努めている。	○
重点項目 ②	運営推進会議を活かした取組み (外部評価項目：3)	評価
	運営推進会議は二か月に一度実施され、抱括支援センターの職員の参加も得られている。出席者の家族から食事に対しての要望や、体操を取り入れて欲しいと言う意見に対しても積極的に支援の中に取り入れている。	○
重点項目 ③	市町村との連携 (外部評価項目：4)	評価
	生活保護の利用者の入居の件で、区の担当者とは頻りに連絡を取り、分からない事を聞いたり、相談している。又区の担当者がホームに来訪されることもある。市主催の研修の連絡も随時有り、職員が順番に参加している。	○
重点項目 ④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目：6)	評価
	家族会は敬老会の際に開催されている。電話や面会時の際にできるだけ意見や要望が汲み取れるように職員は家族とのコミュニケーションを大切にしている。家族から出された意見、要望、苦情等は申し送りノートに記入し、職員全体が把握して、速やかに対応出来るように努めている。	○
重点項目 ⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	×	○	○	○	

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況 (外部評価) が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認 (記録、写真等) できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的 (年2回以上) に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的 (年2回以上) に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。